

ツルヨシ

ヨシと形がよく似ており、両種とも水辺に生育する大型の植物です。ツルヨシは、名前の通り長いつる（ほふく枝）を伸ばすのがヨシとの大きな違いです。ツルヨシは河川の上流部などの、石や砂が多い場所に生育が限られるのも特徴です。高さは約2mになり、円柱形の茎に細長い葉をたくさんつけます。

夏から秋にかけて紫色がかった大きな穂を茎の先につけます。ほふく枝にはたくさんの節があり、それぞれの節からひげ根を出します。洪水などでほふく枝がちぎれても、それぞれのほふく枝が新しい株となって茎を伸ばすことができるので、流れの速い川の水辺や川床でも生育を続けることができます。

富士市での現状

ツルヨシは河川上流部の谷川に生育できる数少ない植物の1種です。河川上流部では、ツルヨシとセキショウが最も普通に見られます。その他に、富士川の下流部でも、岩や砂利が多いところにはツルヨシが生育しています。川幅の狭い山間部の河川では、川床いっぱいにツルヨシが繁茂しているのをよく見かけます。



ツルヨシの生えている様子

ツルヨシを確認したメッシュ

